



# 知行院便り

発行／宗教法人知行院 東京都世田谷区喜多見 5-19-2 TEL 03-3417-3456 FAX 03-3417-3000



**法事の功德**

知行院住職 坂本観泰

昨年四月に住職を引き継いでから一年余り、皆さまのお力添えにより、無事、寺門興隆の務めを全うさせていただきました。住職になってから、以前に増して感じることもあります。檀信徒の皆さまの法事をつとめさせていただくと、法事に参加されている親類縁者の方々が、親類同士の絆を再び深めている姿を見ることが出来ます。縁あるもの同士が、本堂で故人を偲びながら同じ気持ちになって、その後の会食で同じ食べ物を食べ、同じ時間、同じ場所を共有して過ごす数時間。その姿は、とても幸せそうに見えます。親類というものは、若い時には、親しくお付き合いをしていても、それぞれが家庭を持ったり、子どもが成長して家を離れていったりすると、だんだんと疎遠になってしまいます。疎遠になってしまうのは、皆それぞれに事情もあり仕方ないことです。それが法事という場で、ともに故人を偲びながら、親類の絆を再び深めていく、そんな姿を見ると、私の師匠である先々代の住職が、繰り返し「法事の功德」ということを言っていたことを思い出します。法事を行うことで、残された私たちの絆が深まっていくのが、法事の功德なのだと言うことです。そして親類づきあいが少ない現代だからこそ、よりいっそう法事が大切なんじゃないかとも思いました。これも、務めさせていただいた法事を通して、檀信徒の皆さまから教わったことだとつくづく実感します。今後、皆さまのご指導をいただきながら、法務に務めていきたいと思っております。

## お知らせ

### スロープとリフトが完成しました

昨年よりお伝えしていたように、バリアフリー化の一環として、檀信徒会館「影向殿」の二階にあがるためのリフトと、本堂に車椅子でもあがることのできるスロープが、ようやく完成しました。ぜひご利用いただければと思います。



スロープの設置で本堂には車椅子のままあがることができます

墓地側の階段に設置したリフト



### 檀信徒会館の一階を開放しています

昨年より、お寺で法要を行う時や、お彼岸・お盆などの季節には、檀信徒会館「影向殿」一階を開放するようにしました。皆さま、お休み処として、お待ち合わせの場所として、自由に使用していただければと思います。お茶も自由に飲めるようにしましたので、ゆっくり過ごしていただければ幸いです。

### 墓地の新規区画をつくりました

墓地の一部を整理して、新たに若干の区画をつくり、募集することになりました。ご親類等で、墓地をお求めの方などいらっしゃったら、ご紹介いただければと思います。

### 住職がヴェサックに参加

東南アジアのテラワダ仏教では、五月初の満月の日、お釈迦さまの生誕を祝いヴェサック・デー（釈迦生誕日）が行われます。多民族・他宗教の国家であるマレーシアでも、毎年、仏教徒によるヴェサック・デーが行われています。中でもセラランゴ州は、州主催で行っており、今年のヴェサック・デーには全日本仏教青年会を招待し、日本側の代表として観泰住職が、五月八



ヴェサックに参加する観泰住職とマレーシアの僧侶たち



十一日までの期間、マレーシアを訪ねました。観泰住職の十数年来の友人であるロカ・サイカイ氏は、ヴェサック・デー開催の組織委員長をしており、その旧交をあたためるとともに、日本・マレーシアの仏教交流を深めてきました。また日本の僧侶による太鼓の会「鼓司の会」も、ヴェサック・デー開会式でパフォーマンスを披露するため、観泰住職といっしょにマレーシアを訪問、二千をこえる聴衆の前でパフォーマンスを披露しました。



パフォーマンスを披露する鼓司の会



新就職インタビュー

第二回 山田恵諦座主猥下のお言葉に後押しされて



聞き手 ご住職は、アメリカに何年か留学していると思いますが、どういうきっかけで行くことになったのですか？

住職 比叡山で修行をしている時、比叡山宗教サミットという宗教間対話の世界的な行事があったのです。その時のお座主さまが、山田恵諦猥下という宗教界の巨人でして、その山田猥下が日本の宗教界の代表的な立場を務めていました。私はまだ二十二歳で、いろいろとお世話をする立場だったのですが、たまたま山田猥下と同じ部屋で二人きりになったんです。すると、山田猥下が「おまえ、名前は？どこからきた？」と聞いてくださり、少し話すことになったのです。

聞き手 それは、なかなか貴重な体験ですね。

住職 その時、山田猥下から「おまえ、英語は喋れるか？」という言葉を言われました。何かと思っただけですが、「宗教サミットを開催することになったが、こうして世界中の宗教者と対話をする事になったが、わしらは、どうしても通訳を通して話をしなければならぬ。通訳を通すと話の内容は通じない。だから若いうちに海外行って、勉強してきなさい」という話をしてくださったんです。

聞き手 それがきっかけだったんですね。

住職 以前から、ちよつとは考えていたんですけど、この山田猥下の言葉が無かったら、行くことは無かったでしょうね。

聞き手 それからすぐに留学したのですか？

住職 実際に行くのは、それから三年くらいしてからですね。父の友人がノースカロライナ大学で教授をしていたので、いろんな手はずをととのえていただきました。最初は語学学校に入って、英語を勉強しながら、どこの大学に行くかを探していたんです。その中で、ある先生から、君のように比叡山の僧侶というようなバックグラウンドを持っているなら、バージニア大学にポール・グロナーという先生がいるから、そこで学ぶといいよ、と言われ、バージニア大学の大学院に行くことになったんです。

聞き手 そこでは何を学んだのですか？

住職 専門はイースト・アジア・ブディズムです。特に、漢訳のお経を、どう英語に訳すか、ということが中心でした。仏教の言葉には、英語に無い言葉も多いですから、それをどう表現するかということ。例えば「靈験あらたか」という言葉を、英語でどう表現するか、そうしたことを研究していました。

聞き手 なるほど、それは難しそうですね。

住職 自分は、日本で、仏教の大学に行っていないから、仏教を英語で学んだようなところがあります。アメリカの仏教学は、宗派にこだわりもないし、大きな枠組みで勉強できるんですね。他の宗教も学べるし。そういう意味では、とてもよかったです。山田猥下からは、「異教徒と話合って、理解し合うことが大切だ」とも言われていたので、そうした経験を、現実の人間関係でも、学問の上でもできたのはありがたいですね。

子ども達を、お寺で遊ばせていただいています！

喜多見野の花保育園 園長 堤崎栄造

子どもたちも、職員も、お世話になってます。喜多見野の花保育園は、昨年七月に開園したばかりの保育園です。杉並では、六十年間の保育実績があるのですが、この喜多見という地では全くの新参者。不安と期待が入り混じっていたというのが正直なところでした。

そのような時、不安要素を拭く温かい受け入れをしてくださったのが知行院さんでした。子どもたちの大好きな散歩の際に、車が気になつていたり、「境内を通って、お墓の通用門から(栗の木公園)へ行けるよ。」と仰ってください

たことで、どれだけ散歩がしやすくなったことか。グラウンドも使わせていただいています。暑い日には子どもたちに魅力的な水撒きなどもさせていただきました。狭い園庭で、運動会の練習が十分に出来ない時、避難訓練の時のグラウン



境内で遊ぶ子ども達

地域に開かれた保育園をめざしていきたいと思えます。子どもの視点はどうも貴重で、可能性をいっぱいに秘めています。豊かな自然と、人と人との気持ちの良いつながりの中で保育を展開していきたいと思えます。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

涅槃会の法要を行いました

仏教ではお釈迦さまがお亡くなりになった二月十五日に、涅槃会という法要を行います。知行院でも毎年、涅槃会を行っております。

今年も涅槃会では、お釈迦様が亡くなった時の姿を描いた涅槃図を本堂に掲げ、檀信徒一同、お釈迦さまのご遺徳を偲び、ご恩に感謝しました。

本堂での法要後には、本堂を出て鐘楼前に移動し、卒塔婆のお焚きあげを行いました。このお炊きあげは、ご参加の方々の功德を、あの世でお釈迦さまとともに過ごしているご先祖さまのもとに送りとどけるためのものです。参加の方々は、ご先祖さまに思いを寄せながら、みなお釈迦さまの恩徳に感謝をしました。

